

沖永良部で干ばつ深刻

沖永良部地域農業用水濁水対策連絡調整会議が22日、県大島支庁沖永良部事務所であった。同地域で7、8月の降雨が少ない状況が続いていることから、濁水に対する情報の共有や連絡調整を目的に開いたもの。同会議の開催は4年ぶり。

会議には、同事務所、和泊町、知名町、農業関係団体など24人が出席。報告によると、沖永良部島、与論島ともに7月は平年比の1%、8月は20日現在で平年比の4割程度となっている。ため池貯水率は21日現在、沖永良部島が68%、与論島73%。同事務所農業普及課によると「春植・株出しは一部でロール現象、黄化現象

散水車申込が一週間待ち

4年ぶりに農業用水濁水対策会議

が見られる。夏植はおおむね順調だが、一部ロール現象があらわれ、象が下葉の枯れが見られる」としている。

干ばつは、特に島北部の和泊町が深刻で、散水車の申し込みが急増し、1週間待ちの状態。町では早めのかん水呼び掛けや散水車および畑かん散水利用料金の半額助成を実施している。和地区では20日から、夜間取水制限も行っている状況だ。

沖永良部土地改良区では「干ばつが続くようであれば、他地区でも取水制限を検討しなければならぬ」とした。

2017年度建設業経営者研修会(指宿)が23日、指宿市の指宿建設業会館であった。写真。建設業事業主ら58人が参加し、経営事項審査や建設業許可手続などについて知見を広めた。

県土木部監理課と県建設業協会の共催で、毎年実施している研修会。県担当者らが、①建設業の許可制度②建設業法等の順守③建設業の支援策④建設業の発展策⑤建設業の国際化について解説した。

建設業経営者研修会(指宿) 経審や許可制度解説

また、協会から労働災害の防止や建退共制度などを周知した。

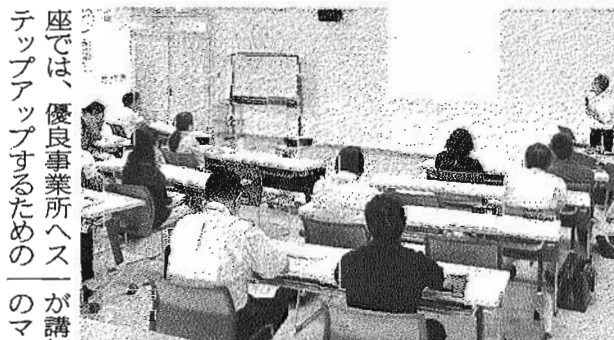
出席者は、今後の業務に生かそうと、熱心に受講していた。

かごしま環境未来館は23日、鹿児島市の同館で環境管理事業所講座を開いた。建設関連企業など約20人が参加し、優良事業所への目標設定とその取り組みについて学んだ。

同市では6月現在、約500の事業所がISOなどの環境経営事業所として認定されている。講座では、環境未来館が「各現場ともおむね良好」と好評。近藤泰史副支部長(労働委員会統括)が改めて安全対策に万全を期すよう求めた。

環境管理事業所講座

明確な目標設定を



環境活動による経営体質の強化を促した講座＝鹿児島市のかごしま環境未来館で

経営に密着した目標設定やさまざまな施策などの解説があった。

NPO法人エコサポートTGAの久留正成理事長が講師を担当。取り組みのマンネリ化について、

「数値だけを管理している状況では具体的な施策が見えない」と指摘し、調査や実験、見極めなどの進捗管理と絶対量・原単位管理を併用した施策管理を呼び掛けた。さらに、「仕事の効率化や生産性を上げるためには、ペーパーレスの推進や照明のLED化などの環境活動が経営体質の強化に役立つ」と強調した。

このほか、温暖化防止の動きなど持続可能な社会形成に向けた取り組みの紹介もあった。

建設技術者研修会(大根占) 積算基準改定に理解



建設協、県土木部、県土木施工管理技術士会共催の2017年度建設技術者研修会が24日、大根占の錦江町文化センターであった。写真。大根占支部長が挨拶。

大根占支部長は、現場

員の高齢化や後継者不足の問題に触れた上で「業界の一員として社会に貢献する」とともに、技術力向上にも継続して取り組んでほしい」と述べた。

研修では、同局建設部の上田猛志河川港湾課港湾漁港係長が16年度土木工事検査・監査概要、恒吉紀昭土木建築課道路維持第二係長が積算基準の改定点について説明を行ったほか、建設業法、工事手続きの留意点など幅広い内容で講習が行われた。

参加者は、テキストを手にも取りながら、熱心に聴講していた。

安全管理の徹底を呼び掛けたパト＝湧水町の現場で

同支部は、労働災害が増加傾向にあることから、安全意識を高めるとともに、

労災防止に向け積極的にパトロールを行っている。この日は労働委員会ら8人が参加し、湧水と霧島の2地区に分かれ実施。湧水地区では、火山砂防、細川川工区(松林組)など4現場を巡回した。安全日誌等の記入状況を確認し、施工状況や安全対策等を念頭に点検。各現場ごとに良かった点や改善点をアドバイスし、山口支部長が「熱中症対策をしっかり行うよう」と注意を促した。また、霧島地区は、H29落水田、万膳線道路改良(ヤマグチ)など2現場を見て回り、さらなる安全管理の徹底を呼び掛けた。

栗野建設会館であった反省会では、一部指宿事

「国士・土木とAI懇談会」初会合

ビッグデータを活用へ

土木学会(大石久和会長)はこのほど、「国士・土木とAI懇談会」の初

坂村健雄(東洋大学情報連携学部長)は、ICT(情報通信技術)が製造技術と融合し、新しい製品・サービス・付加価値を生むインダストリー4.0(第4次産業革命)が急速に進展している国内外の状況を簡略に説明。その上で、「これまで取れなかった大量のデータを取得し、格納できるようになった。(時代は)これらのビッグデータをどのように利用するかを問い、それに応えていく段階に移行している」と指摘し、「土木の分野に、進化し続けるICTをどのように提供するのが望ましいか考えていきたい」と述べた。

「普段の何気ない瞬間こそ幸せに感じられる内容。友人の家を訪ねるような気持ちで見てもえたら」と話す。今後は、住まい手からも投稿を募り、第二弾の発行も予定している。

問い合わせは、同社企画した広報リーダ(0999・286・0088)まで。



シンケンが40周年記念冊子

11月に会社設立40周年を迎えるシンケン(追分市)を形にできた英徳社長、鹿角島市)一との思いから企画。実際にシンケンに暮らすスタッフ26人が、自らの手が綴った「住まいの家」を写真と文章で表現した。価格は147円。価格は6の147円。価格は無料。

冊子は、これまで700棟以上を手掛けた同社が、お客さまへお礼の気持ちを込めて無料配布している。主に完成見学会やモデルハウスの配布に活用している。

同社ホームページから資料請求も可能。企画した広報リーダ(0999・286・0088)まで。

シンケンが40周年記念冊子

お客さまへの感謝を形に